

3. 「農を支える環境をつくる」

— 基本的な考え方 —

町田市の農業は、市民に安心・安全な農畜産物を供給するとともに、その生産基盤である農地は、都市の環境保全や防災上の価値を有しています。

一方で町田市内の農地は、都市化の影響や担い手不足により年々減少しています。都市農地を保全するため遊休農地の活用を図るとともに、新たな農の担い手の育成・確保が求められます。都市農地の減少については、国の農地制度や税制度による支援も必要と考えますので、必要に応じて国に対して要望していきます。

環境問題を解消するため地産地消を推進し、町田産農畜産物を多くの市民の方々が購入することができるよう様々な機会を捉えて町田産農畜産物をPRするほか、町田産農畜産物の直売を支援していきます。

大都市圏に立地する特色と優位性を活かした多様な流通ルートの構築や「農商工の連携」による加工品の製造・販売、新産業の創造や体験農園等の観光産業との連携など様々な発展可能性を検証し、市内農業の振興を図っていきます。



◇ 3 - 1 農の担い手育成支援事業

取り組みの概要	<目的・狙い> ・ 農業後継者の育成 ・ 農の担い手の育成		
	<内容> 町田市研修農場（小野路町）を拠点として、町田市農業協同組合やNPO法人等と連携しながら農業研修を実施し、新たな「農の担い手」を育成します。また、修了生のうち希望者には農地あっせん事業で新規就農ができるよう支援します。		
	<実施主体> ・ 町田市（農業振興課）		
指標	①町田市農業研修修了生数(累計) ②修了生のうちあっせんを受けて就農した人数(累計)	現状 (2012年度)	①23人 ②2人
		目標 (2018年度)	①80人 ②20人

◇ 3 - 2 農業経営支援事業

取り組みの概要	<目的・狙い> ・ 農業経営の安定化 ・ 市内農業の活性化		
	<内容> 町田市農業の中心的存在となる農業者を認定農業者（※）として認定します。認定農業者を対象とした研修会等を開催し経営の支援を行います。また町田市認定農業者連絡協議会の活動を支援し、市内農業の活性化を図ります。		
	<実施主体> ・ 町田市（農業振興課、農業委員会）		
指標	市内認定農業者数	現状 (2012年度)	90人
		目標 (2018年度)	現状水準維持

※認定農業者とは、農業経営基盤強化促進法に基づき農業経営改善計画を立て、市町村の認定を受けた農業経営者・農業生産法人です。

◇ 3 - 3 環境にやさしい農業支援事業

取り組みの概要	<目的・狙い> ・減農薬・減化学肥料農法に取り組む農業経営者の支援		
	<内容> 東京都・町田市農業協同組合と連携し、農業者が行う減農薬や減化学肥料などの環境対策を支援していきます。また市内畜産農家が生産した堆肥が、市内で消費されるよう支援していきます。		
	<実施主体> ・町田市（農業振興課） ・町田市農業協同組合 ・東京都		
指標	①東京都エコ農産物認証制度参加農家戸数 ②市内生産堆肥の流通量	現状 (2012年度)	①— ②305.75 t
		目標 (2018年度)	①50戸 ②現状水準維持

※東京都エコ農産物認証とは、環境負荷の少ない生産技術を用いて、都が定めた農薬や化学肥料の使用基準から、一定程度使用量を削減して栽培された農産物を認証する制度です。

◇ 3 - 4 経営環境整備支援事業

取り組みの概要	<目的・狙い> ・農業経営の近代化と合理化の促進		
	<内容> 農業者が収益性の高い農業を実現するために行う、経営の改善及び合理化を目指す事業に対し補助を行い、農業の近代化等を促進することにより持続的な農業経営に向けた支援を行います。		
	<実施主体> ・町田市（農業振興課）		
指標	事業実施件数	現状 (2012年度)	9件/年
		目標 (2018年度)	現状水準維持

◇ 3 - 5 畜産事業者経営支援事業

取り組みの概要	<目的・狙い> ・畜産事業者の経営安定化		
	<内容> 優良家畜の購入など、持続的に畜産事業を営んでいく上で必要な事業に対する一定の補助を行っていきます。		
	<実施主体> ・町田市（農業振興課）		
指標	市内畜産事業農家数	現状 (2012年度)	11戸/年
		目標 (2018年度)	現状水準維持

◇ 3 - 6 農地利用集積円滑化事業 ☆

取り組みの概要	<目的・狙い> ・農業経営の規模拡大の促進 ・新規参入の促進 ・遊休農地の解消		
	<内容> 農業経営基盤強化促進法に基づき、農地を借りたい人を担い手バンクに、遊休農地を農地バンクに登録してマッチングを行い、市街化調整区域内の農地を新たな担い手にあっせんします。		
	<実施主体> ・町田市（農業振興課、農業委員会）		
指標	農地あっせん成立件数（累計）	現状 (2012年度)	25件
		目標 (2018年度)	40件

◇ 3 - 7 農を活かしたまちづくり推進事業

取り組みの概要	<目的・狙い>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町田の農業と市内農畜産物のPR ・ 農を活かしたまちづくりと観光集客の拡大 		
	<内容>		
	七国山地域において、景観作物の栽培やファーマーズセンター、ふるさと農具館の運営など農を活かした景観形成を進めていきます。		
	<実施主体>		
	・ 町田市（農業振興課）		
指標	①ファーマーズセンター来館者数 ②農具館来館者数	現状 (2012年度)	①13,108人/年 ②29,743人/年
		目標 (2018年度)	①14,000人/年 ②31,000人/年

◇ 3 - 8 地場農畜産物直接販売推進事業

取り組みの概要	<目的・狙い> ・ 農業生産者と消費者の交流の促進 ・ 町田の農業と市内農畜産物のPR ・ 地産地消の推進		
	<内容> 市内の認定農業者が直接販売する日曜朝市とまち☆ベジ市(※)を開催し、消費者と生産者の交流・情報交換を促進していきます。また、まち☆ベジマップ(直売所マップ)を通して町田市農業協同組合や生産者などが運営する直売所や直売イベントの積極的なPRも進め、地場農畜産物を市民の方が購入できる機会の拡充を図っていきます。		
	<実施主体> ・ 認定農業者連絡協議会 ・ 町田市(農業振興課)		
指標	まち☆ベジ市来場者数	現状 (2012年度)	800人/年
		目標 (2018年度)	1000人/年

* 「まち☆ベジ」とは、町田産農畜産物の認知度向上及びブランド化の推進を目的として、2011年にシンボルマークとネーミングを決めました。

マークを使用できるのは、市内在住で拠点を市内に置く農業経営者で、市から承認を受けた方と、マーク使用を承認された方の生産した町田産農畜産物を販売したり食材として使用している販売店や飲食店です。

～日曜朝市～

実施日時：毎月第1日曜日

(7・12月は第1・第3日曜日の2回開催、但し1月は第2日曜日)

午前7時～午前8時(冬季(12月～3月)は午前7時30分～午前8時30分)

開催場所：町田市教育センター(木曾東)

～まち☆ベジ市～

実施日時：毎月第3月曜日(休日の場合は翌開庁日)、午前11時～午後1時

開催場所：町田市庁舎 正面玄関横

◇ 3 - 9 地場農畜産物学校給食利用促進事業

取り組みの概要	<p><目的・狙い></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の推進 ・食育の推進 ・児童への新鮮で安心安全な食材の提供と町田産農畜産物のPR 		
	<p><内容></p> <p>市内の農業者が生産した米、野菜、乳製品や卵などを学校給食に供給し、地産地消と食育を推進します。さらにその取り扱い量を増やせるよう補助事業を実施し、供給の安定化を進めていきます。</p>		
	<p><実施主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町田市（農業振興課・保健給食課・保健企画課） ・町田市農業協同組合 		
指標	①地場農畜産物利用校数 ②学校給食食材出荷量	現状 (2012年度)	①42校 ②25.29 t /年
		目標 (2018年度)	①現状水準維持 ②50 t /年

～地場農畜産物を活用した学校給食の実施例～

- ・新米による米飯給食（2012年度は2回実施）
- ・市内酪農家が作った飲むヨーグルト

◇ 3 - 10 町田産農畜産物のブランド化推進事業 ☆

取り組みの概要	<p><目的・狙い></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町田の農業と市内農畜産物のPR 		
	<p><内容></p> <p>まち☆ベジマップ（直売所マップ）配布などのPR活動を行います。販売店や飲食店への町田産農畜産物とまち☆ベジマークの使用を促進し、広く町田産農畜産物のPRを行います。</p>		
	<p><実施主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町田市（農業振興課） 		
指標	まち☆ベジ使用店舗数	現状 (2012年度)	14店舗
		目標 (2018年度)	30店舗

◇ 3-1-1 市民と農のふれあい推進事業 ☆

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市民と農業のふれあいの促進 ・市民の農業に対する関心と理解の増進		
	<内容> 市民が農とふれあう場として市民農園を管理運営します。市内の市民農園や体験農園をまち☆ベジマップ（直売所マップ）等でPRします。また、市内農業の拠点施設としてアグリパークを開設します。アグリパークの基本計画を2014年度に策定し、2015年度に設計・工事を開始し、2016年度に部分開園を行います。		
	<実施主体> 町田市（農業振興課）		
指標	市民農園の利用率 市民農園・体験農園の箇所数	現状 (2012年度)	100% 17箇所
		目標 (2018年度)	100% 20箇所

◇ 3-1-2 農業祭

取り組みの概要	<目的・狙い> ・町田の農業と市内農畜産物のPR ・農業者の営農技術の向上		
	<内容> 市民が町田の農業に触れることのできるイベントとして「太陽と緑のまつり」を開催し、市内農畜産物のPRを行います。また、品評会や立毛審査を通して農業者の営農技術の向上を図ります。		
	<実施主体> ・町田市農業協同組合 ・町田市（農業振興課）		
指標	①農業祭来場者数 ②品評会出品数	現状 (2012年度)	①12,000人/年 ②520点/年
		目標 (2018年度)	①15,000人/年 ②650点/年

～町田市農業祭「太陽と緑のまつり」～

市内の農業をPRするイベントとして、農業祭を毎年開催しています。市内の農家がつ作った農畜産物の即売をはじめ、野菜の収穫体験、農作物の品評会などが行われます。

実施時期：11月第2・第3土・日

開催場所：町田駅周辺施設、JA町田市忠生農業センター等